

森のおくりもの6月



カジカガエル（アオガエル科）



自然観察センターからトンボの沢にかけての笹川ぞいでは、カジカガエルが今盛んに鳴いています。鳥たちのさえずりはあまり聞かれなくなりましたが、エサをねだるヒナをつれた親子が目につくようになりました。バッタやコオロギの仲間も鳴き始めています。笹藪ではカメムシの仲間がだす音も聞かれます。セミが鳴き始めるまでの間、耳を澄まして歩くといろいろな音が楽しめます。

【写真・文 早坂 徹】

キラキラな虫☆

「ドロハマキチョッキリ」



■作り始めてから2日目の
揺籃。雨の日は、揺籃づ
くりお休みしました。

観察センターの横の木道から見える
イタドリの葉が途中からポキッと折ら
れてしおれています。誰のしわざでし
ょうか。よく見ると、キラッと光るも
のがそばにいませんか？

これは、**ドロハマキチョッキリ**のし
わざで、揺籃（ようらん）*を作っ
ているのです。

ドロハマキチョッキリは、イタドリ
などの茎や葉柄を名前の通り**チョッキ
リ**折ってしまいます。（正確には、か
じる）そして、しおれて葉が柔らかく
なってから葉を巻き始めます。全部の
脚を使って、ギュウ〜と絞るように
葉を寄せて巻いていきます。中には卵
が数個産んであります。

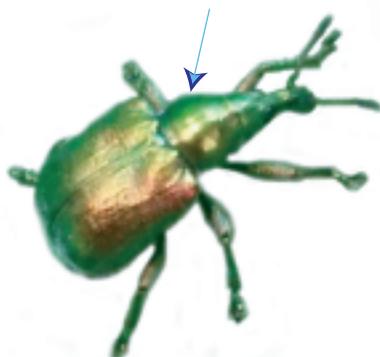
■よく見ると、
齧った痕が



ここにいるよ

美しい金属光沢

■胸にトゲが一对あったら、オス
この写真は無いのでメスです。



【体長：5.0～7.0mm】

- 観察の森で見られる時期は5月～6月
- メタリックな緑色に赤銅色が混じった色の他に青色型の個体もいるようですが、私はまだ見たことがありません。
- 揺籃の中で卵が孵化した幼虫は、包まれている葉を食べて成長し、蛹になる前に外に出てきます。そして、土の中にもぐって蛹になり、羽化しますが、そのまま成虫越冬します。

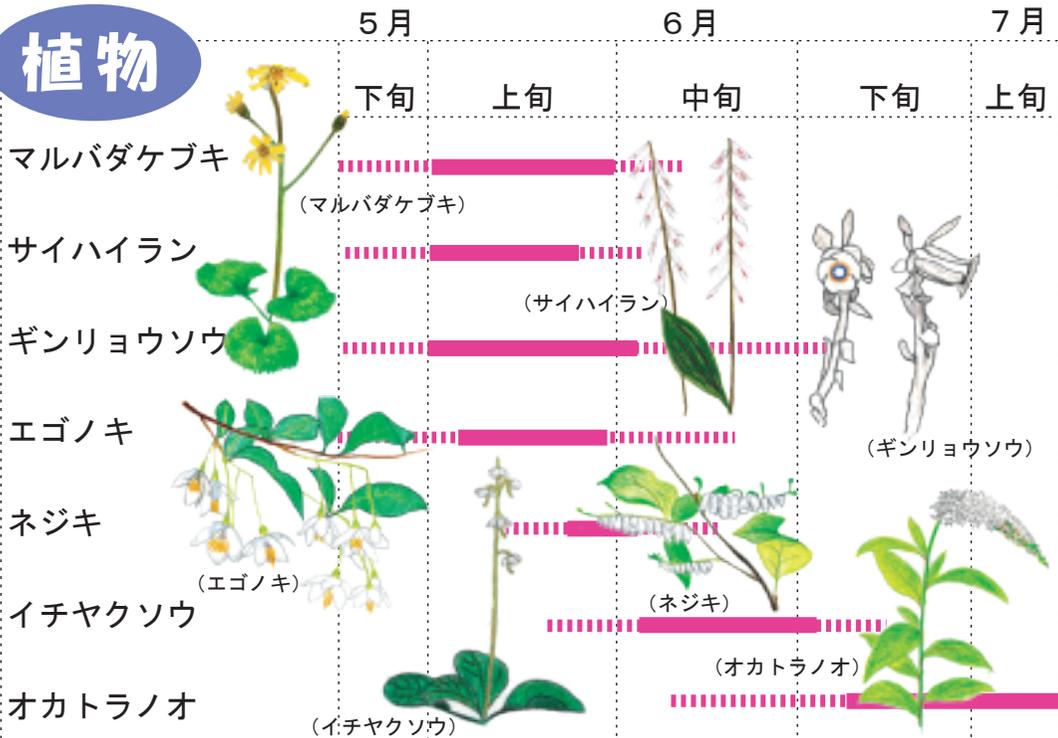
わずかに5mmほどの小さな虫が、自分の何倍もある大きな葉を一生懸命巻いている姿を見ると、「がんばって！」と応援したくなりますね。

【レンジャー：黒川周子】

* 幼虫の間過ごす「ゆりかご」のこと

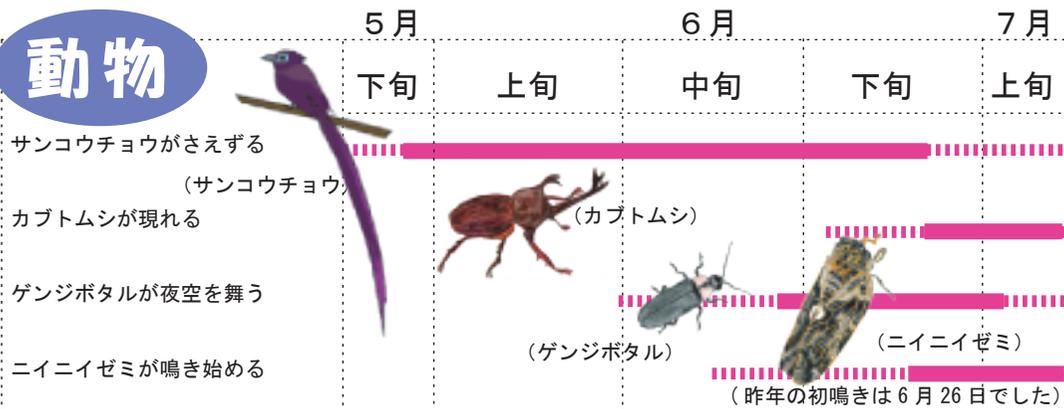
6月の生物ごよみ

植物



昨年度から自然観察センター内に動物の生息調査のためセンサーカメラを設置しています。今まで撮影できた動物はニホンカモシカ、イノシシ、ノウサギ、タヌキ、アナグマ、ニホンリス、テンなど。野生動物はほとんどが夜行性でニホンカモシカやニホンリス以外はなかなか昼間に見ることが出来ません。センサーカメラに写るのもほとんどが夜でしたが5月10日、10時ごろ、キツネが写っていました。雪上にキツネの足跡がつくことはたまにあるのですが、しっかりと動画で撮れたのは初めてでした。

動物



【レンジャー：齋 正宏】



レンジャーの森の雑記帳



旧暦で水無月^{みなづき}という語感が美しい季節になりました。雨の日は、園内のヨシの湿地や笹川に、新緑の葉からまるで緑色に輝くような無数の雨の雫が、水面に滴り落ちていきます。初夏という季節は、私にとってまた好きな夏が巡ってくる、そんな漠然した期待感とうれしさも入り混じります。

偶然でしょうが今年になってから、カルガモを園内で見かける場面が多くなりました。暑いある日に笹川で仲良く川を遡上するカルガモのペアを見つけました。カルガモ達を観察していると餌を探しているというより、ゆっくりと川の流れに身を任せて、お散歩でもしているかのような雰囲気でした。笹川に樹々の葉の影が投影され風に揺らめき、水面は夏を予感させる光で輝いています。つがいなののでしょうか？毛づくろいをしていてもお互い常に離れず浅瀬で休んでは、またペアで上流へと泳ぎだします。そんなカルガモを見ていたら自分自身がそこでくつろいでいるような安息感を覚えました。

さわさわと葉擦れの音がして、軽やかな水音がそれに重なり、初夏の光に包まれてゆるやかに泳ぐカルガモたちを見ていたら、とても平穏な気持ちになりました。一瞬遠く離れた私の存在を気づいたような動きを見せたカルガモ



たちを見て早々にその場から離れることにしました。彼らの限りある秘かな蜜月の時間をこれ以上追う野暮なことはできません。カルガモ達がこの場所が気に入って、これからもずっとこの地で暮らしてくれるように願っています。

【レンジャー：阿部正明】

季節を感じて楽しむ

森の七十二候
第3回



静かな夜の森の神秘的な光景といえばホタル。昔の人は、夏の初めに発光しながら飛ぶこの優雅な昆虫を、草が腐って生まれてくると思っていたようです。

どうして腐った草なのでしょう？夜にぼんやり光るホタルはちょっと不気味な感じがしたのかもしれない。また、蛹は確かに枯葉の下の土の中にあります。腐った草もあながち間違いではないかもしれません。

羽化したホタルの命はおよそ2週間、成虫はエサも取らずに子孫を残して死んでいきます。

ホタルが放つ光は、儂い命の灯にも思えます。

く
さ
れ
た
る
く
さ
、
ほ
た
る
と
な
る

腐草螢為

6月10日から
15日ごろ

ゲンジボタルの一生は、卵が川辺の木のコケの中に産み落とされたところから始まります。1カ月ほどでふ化し、幼虫は川の中に。川ではカワニナを食べてどんどん大きくなり、冬も水の中で過ごします。春がきて幼虫は陸にあがり、土に潜って蛹になり、夏の初めに羽化して成虫になるのです。

センターでは毎年7月初めに「夜の森のかんさつ会」を行っています。昨年はゲンジボタルやクロマドボタルの幼虫が発光しているところを観察できました。今年もホタルを観察できることを楽しみにしています。

オオオバボタル



幼虫のエサは、ミミズ類です

成虫はほとんど光りません



クロマドボタル(幼虫)

ゲンジボタル



日中は葉っぱの裏で休んでいます

【レンジャー：遠藤和子】

◆「おはよう野鳥かんさつ」

・初夏の雑木林を歩きながら、野鳥のさえずりを楽しみます。

6月10日(土) 6:30～8:00

【定員】定員なし 申込み不要

【料金】無料

【持ち物】歩きやすい服装、カップ、
双眼鏡(身分証提示で貸し出しあり)

◆「深緑の鉤取山ハイク」

・青葉が薫る鉤取山原生林の自然を観察しながら、ハイキングを楽しみませんか?

6月24日(土) 10:00～15:00

【定員】先着20名

【料金】無料

【持ち物】歩きやすい服装、
カップ、昼食、飲み物

【申込み】6月7日(水) 9:00から
電話で受付[先着順]



◆「キッズ昆虫たんけん隊」

・昆虫を捕まえ、スケッチをしてじっくり観察をします。

6月10日(土) 10:00～12:00

【定員】小学生15名

【料金】無料

【持ち物】歩きやすい服装
帽子、カップ、
飲み物

【申込み】6月6日(火)

9:00から

電話で受付[先着順]



◆「館長と森を歩こう」

・館長が森で出会う昆虫や植物について楽しく解説します。

6月25日(日) 10:00～11:30

【定員】定員なし 申込み不要

【料金】無料

【持ち物】歩きやすい服装、カップ、

毎週
日曜は

『ガイドウォーク』の日!

テーマは、「森と昆虫たち」

4日、11日、18日、25日

開催時間: 10:00～11:30

13:30～15:00

申し込み不要。時間までセンター前にお集まり下さい。

◎25日の午前は、自然観察センター館長のご案内します。



準備してある材料を使って、誰でも自由にクラフトが作れます。

6月のクラフトは
クルミの
小鳥



ヤマツツジの丘からヨシの湿地へ通じる橋が老朽化のため、しばらくの間通行止めになります。

6月の休館日

5日 12日 19日
26日

宮城交通バスの場合

- | | | |
|------------|-------|-----------|
| ① 仙台駅 | 7番のりば | 乗車時間 約40分 |
| ② 長町駅東口 | 3番のりば | 乗車時間 約30分 |
| ③ 八木山動物公園駅 | 6番のりば | 乗車時間 約10分 |
- 【行先】①②③「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
(※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘経由山田自由ヶ丘ニュータウン行」)
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

♪森へおいでください♪



自然観察の森の最新情報、
「森のおくりもの」バックナンバーは
Webで!

「社のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>

2017年6月号(毎月1回5日発行)

発行:(公財)仙台市公園緑地協会

編集:仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

E-mail: taihakusan_moushikomi@sendai-green-association.jp